

第 101 回全国高等学校野球選手権新潟大会の閉会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

優勝された日本文理高校の皆さん、優勝おめでとうございます。2年ぶりの秋、春、夏完全制覇を成し遂げ、喜びもひとしおかと思えます。攻守ともに基本を大切にした、安定した試合運びは、勝者に値するチーム力であったと思います。代表校として、甲子園での勝利を大いに期待するものであります。

一方、惜しくも準優勝に終わった東京学館新潟高校の戦い方も見事でした。投手を中心とした守備力に裏打ちされた、粘り強くつなぐ野球で、接戦での強さが印象的でした。合わせて、全校での応援も素晴らしいもので、決勝戦を大いに盛り上げてくれました。

本大会は、新潟向陽高校、大滝和真（おおたき かずま）君の「良き勝者、良き敗者を目指します」という力強い宣誓で開幕しました。大会前の予想では、混戦模様の大会と評され、その中で準決勝戦に公立高校が2校進出し、多くの学校に希望を抱かせてくれる大会であったと思います。

当連盟では、本大会を「高校野球の未来に向けた大会」と位置づけ、皆さんが、スポーツマンシップに則った試合、並びに日常生活を、展開されることを期待し、見守ってまいりました。

今大会を通じ、光り輝く素晴らしい高校生の姿に、たくさん出会えたと思っております。他者を尊重し、困難に立ち向かう勇気を持ち、ひたむきに、覚悟をもってあきらめずに、白球を追い続ける姿。一方では、球場外で一生懸命に駐車場警備等にあたる生徒の姿。グラウンド内外で、「野球の将来に光射すような野球部員」が随所で見受けられました。そうした場面に度々遭遇し、高校野球の未来に向け、一歩踏み出すことができた大会と感じております。

スタンドにお越しいただいた皆さん、今大会における生徒たちの姿は、いかがでしたでしょうか。今大会を作り上げた生徒たちに温かい拍手をお送りいただくとともに、それぞれの環境で頑張る生徒たちを今後も見守り、ご指導いただきたく思っております。

結びに今大会の開催にご尽力いただいた新潟県、新潟県教育委員会、並びに開催市、開催市教育委員会、審判委員をはじめ運営にご協力いただいた関係各位に感謝申し上げます、閉会の挨拶といたします。

ありがとうございました。